

「香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年(板倉 英美菜)

香港中文大学サマースクールには日本人(6割)のほかにヨーロッパを中心に世界各地から学生が集まり、三週間レベルに応じたクラスに分かれて北京語を学びます。初日には中文大学の学生にキャンパス内を案内してもらう機会があり、その際に教室の場所やバスの乗り方等を教えてもらい、三週間自分たちで生活していきます。平日は午前には文法の授業が三時間、午後には会話の授業が三時間あり、それぞれ別の先生が担当していただきます。私は今年の四月から中国語を学び始め、下から二番目のクラスで学ぶことになりました。授業で扱う文法事項や単語は新しく習うものが大半だったため、日々学ぶことが多く、三週間で非常に多くの知識を得ることができたと感じています。また、他の学生とのペアワークや中国語での作文など、得た知識をアウトプットする機会がたくさん設けられており、曖昧になっていた知識を再確認したり、自分の伝えたいことを中国語でどのように表現できるか考えたりする中で理解を深めることができたとともに、習った知識を使っていくことが外国語を学習する上でいかに重要か気づかされ、帰国後の学習にも生かしたいと思いました。会話の授業では先生に自分の中国語を聞いてもらう機会が多く、そのたびに自分では気づくことのできなかった声調や発音の仕方の誤りに気付くことができました。最初は授業で先生の話す中国語を聞き取るのも難しかったのですが、最終日に先生と中国語で簡単な会話ができるときには学習の成果を感じました。

授業以外にも放課後のカルチュラルアクティビティや休日のランタオ島へのツアー、中文大学の学生との交流会を通じて香港の文化や歴史、社会について学び、様々な面で日本との違いや香港という国の特殊性を実感するとともに、日本を外から見つめなおす良い機会になりました。また、世界各地からの参加者がいたことで多様な文化や価値観に触れることができた一方、様々な国の人とコミュニケーションをとるためにはやはり英語を使えることが重要だと感じ、英語の勉強にもさらに力を入れていきたいと思いました。

毎日多くのことを学び、新たな発見があった三週間は非常に濃く、有意義なものでした。中国語の学習がこれからどのような形で自分の進路と繋がっていくかはわかりませんが、自分の可能性を広げてくれるものだと思います。今回のプログラムには中国語のレベルの高い参加者が多かったことも刺激になり、帰国後も中国語を学び続け、上達させていきたいと強く思うようになりました。